

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200908		
法人名	株式会社ユニマツそよ風		
事業所名	中野新田グループホームそよ風(ゆとり、やすらぎユニット合同)		
所在地	静岡県静岡市駿河区中野新田254-5		
自己評価作成日	平成26年1月17日	評価結果市町村受理日	平成26年2月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyouvoCd=2294200908-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡市葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階
訪問調査日	平成26年1月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所理念である「入居者様にゆとりとやすらぎの提供を」のもと時間に縛られず、ゆったりと自由に過ごしていただけるように支援しています。しかし時間のメリハリをつけるために午前中に皆様集まっていたいただきレクリエーションを毎日行っています。その他季節ごとに行事組んで少しでも楽しんで頂けるようにしています。桜や梅の季節には車で出掛けて花見を楽しんでいただいています。特に桜は日本人には特別な花ですので、普段車椅子でなかなか外に出られない方たちにも見ていただけるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

例年は事業所内で楽しんできた夏祭りですが、本年度は回覧板でのお知らせやチケットを添えたチラシを配布することで近隣からの参加を得ることができました。職員は法被に身を包み、響き渡る中島太鼓に誘われた人もあって輪投げやビンゴゲームで笑い合い、スーパーボールすくい子ども達で賑わいました。運営推進会議においても町内から常時数名の出席があり、「非常時はお互いに助け合わなくちゃ」との声ももらえ、事業所理解とともに地域の一員としての繋がりはより強いものとなっています。食事の時に流す音楽は職員交代で持ち寄り意欲もみられ、明確な業務分担で職員個々の責任感が醸成されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者様にゆとりとやすらぎを」という事業所理念を職員、管理者がともに共有して実践につなげるよう努力しています。	特に掲示していませんが「ゆとりとやすらぎ」との覚えやすい言葉であり、共用空間にもゆったり感が漂うことから管理者は浸透していると感じています。自己評価から省みて会議の場でも話材としています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近所に散歩に出掛けたときに挨拶をするなどして地域の皆様に覚えていただくようにしています。	地域リーダーが複数名出席し「非常時はお互い様だからね」との言葉をもらっています。夏祭りには回覧板の力も得て近隣の参加があり太鼓演奏もありました。子ども神輿は毎年立ち寄ってくれ休憩所となっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時に出席していただいた地域の方々に認知症についての質問にお答えするなどして理解をしていただくように努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者様に関する活動報告やサービスについてお話をしています。また皆様からの提案やご意見をサービス向上に活かしています。	地域包括支援センター職員、町内会正副会長、民生委員の参加があります。呼びかけにより家族の出席も叶いました。介護保険についての質問、ボランティアの紹介や防災面でのアドバイスももらっています。	議事録を家族に配布し、参加メンバーも含め内容を再検討して運営推進会議が充実されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者にはわからないことがあったときには電話で聞くなどして事業所の実情を伝えながら、協力をお願いしています。	窓口を訪問する機会は頻回にあり、わからない事にも丁寧に応じてもらっています。月に一度介護相談員の受入れがあり、利用者との会話から得たことは逐次管理者に報告されています。	議事録を行政に届けるなど、連携をさらに深めることを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所全体で身体拘束廃止に努めており、内部研修をして職員にも理解してもらっています。	外部研修の内容を内部研修に落とし込んでいます。玄関はオートロックですが外に出かけたい様子があれば付き添うようにしています。スピーチロックにあたる言葉を理解しているものの、とっさに出てしまう言葉として声の調子や表情に注意を促しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法及び事例について研修を行い、職員が意識を持って防止に努めることが出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度については外部研修で学んでもらい、他の職員にも知識を共有できるよう発表してもらっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定の際には利用者や家族に十分な説明を行い、疑問な点があれば答えて理解・納得していただけるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に来たときには話をし意見・要望などを聞くようにしています。また意見箱を設置して気軽に意見を頂けるようにしています。	参加を呼びかけた運営推進会議に出席が得られています。面会時は意見や要望を言ってもらえるよう働きかけ、担当職員が毎月一筆箋で様子を添え写真を送ることで安心の言葉がもらえています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開くホーム会議において職員の意見を聞く時間を設けています。	自己評価と面談もありますが、職員からは日常的に意見が寄せられています。身体拘束廃止委員会、食材管理、車両管理といった10種類に及ぶ業務担当があり、自負ある細かい気づきが挙げられています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2～3回の自己評価と面談を実施して職員個々の実績・勤務状況を把握し、また要望・意見を聞いて少しでも働きやすい環境を作るよう努力しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム会議時には勉強会や内部研修を行い、また外部研修にも積極的に参加してもらうようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地区の同業者との会議に参加しており、そこでネットワーク作りや意見交換をしてサービスの質の向上に資するよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に際して本人と面接をして困っていることや要望を聞き、それに丁寧に答え安心して生活できるような関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の家族との面接において家族の困っていることなどや思いを汲み取り、良い関係を作れるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の面談時に生活状況を聞いて、まず何が必要かを考え、必要であれば他のサービス利用についても話をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人と一緒に家事をしたり遊びをしたりして、また同じ食事をして暮らしをともにする家族の一員のような関係を築くようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月送っているホーム便りで本人の写真とともに普段の様子を伝えています。また必要が生じたときは家族に連絡してきていただくようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・友人・知人が面会に来たときには暖かくもてなし、又来ていただけるようにしています。また家族との外泊や外出もしていただいています。	珈琲好きな利用者は家族と繰り返し喫茶店に通って楽しんでます。毎週自宅へ外泊する人、個人で新聞を購読する人、若い頃から嗜んだ短歌を詠み続け法人冊子に掲載された喜びを語る人もありました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わりあえるようにレクリエーション等を行って仲間意識が持てるように援助しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても必要に応じて相談や支援に応じています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との会話からその希望や思いを汲み取るように努めています。	言葉での表出が困難な利用者にはアセスメントの情報をもとに、会話やレク活動など様々なアプローチを試みて表情や行動から推し量るよう努めています。職員の気づきは介護記録に書きとめ共有をもっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様と話をする機会をなるべく設けてそのなかから今までの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境を把握するよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの毎日の状態を観察して、その心理状態、能力などの現状把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者ごとに担当の介護職員を置き、モニタリングを行って計画作成担当、ケアマネ、介護職員でカンファレンスを行い介護計画を作成しています。	モニタリング実践記録表の項目毎に具体的な振り返りが成されています。見直しは3ヶ月ごと、また状態変化があればその都度行い、計画作成担当者がプラン化し、ケアマネージャが最終チェックを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を毎日介護記録に残しており、朝夕の申し送りで情報を共有している。またその情報を日々の介護や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様個々のニーズに合ったサービスを行うように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、本人が地域の一人として活動できるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の往診が週1回あり、また個々のかかりつけ医受診の際には家族に付き添っていただいています。その際には状況を口頭又は手紙で伝えています。	協力医の往診と訪問看護が毎週あり、24時間指示を仰げ細目な相談ができています。かかりつけ医の受診は家族にお願いし、馴染みの医師との関係が保たれています。必要に応じてデータを書面で手渡ししています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週1回健康管理に来ており、その際利用者について普段の状況や気づきを相談している。そして必要に応じて家族に受診をお願いしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には病院関係者に普段の様子を伝え、また退院の際には情報を貰って退院後の生活援助に役立っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合については入所時に家族から考えを聞いています。またそのような場面になったときには話し合いを行って方針を共有していくようにしています。	本年は、家族の希望と協力医との連携により1件の看取りがありました。事業所としては重度化にあたり家族と話し合いを重ね、慣れ親しんだ場で穏やかな最期を迎えられるよう受け入れ態勢を整えていく考えです。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時にはマニュアルに沿って行うよう指導しており、行われています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に備えての避難訓練は年2回行っており、地域の方の参加はいただけていませんが、避難の時は声を掛けてとの言葉をいただいています。	地震、火災、夜間を含め様々な想定で年2回実施しています。消火機器の確認や通報訓練、避難に要する時間を計測して人員の少ない夜間想定を繰り返して実施し、近隣の協力も確認できています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重して、誇りやプライバシーを損ねないような声かけ・対応を心がけています。	年に一度接遇の研修を行っています。移乗や移動ではまず声かけして行動に移す、付き添う時には「一緒に居ていいですか」と許可を得たり、排泄用品は人目につかないよう袋入れて持ち歩くよう指導しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活で本人の希望や思いを聞いて、自分で選べるような声かけをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合った暮らしが出来るように支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選べる方には着たい服を選んできていただいている、その他の方にはこちらで、その方にあった服を撰んで着ていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けを出来る方には手伝っていただいています。また職員と利用者は同じテーブルで同じ食事をいただいています。	食材は近隣業者からの配達で仕入れ、献立係がメニューを考えています。職員もテーブルにつき同じ物を食べることで味付けや食べやすさ、嚥下状態を確かめることができ、ゆったりとした食事時間となっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は毎日記録しており、一人ひとりの状態を把握してその方に合った支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行っています。一人ひとりの状態を把握してその方に応じた支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけて状態を把握しています。トイレでの排泄が出来るようにこまめにトイレ誘導も行っています。	日中はトイレでの排泄を基本としてパターンに応じた支援を行っています。バルーンカテーテルで生活に支障を感じていた利用者が、職員の観察と医師のアドバイスからトイレでの排泄に至った例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のために食事に野菜を多く取り入れるなどしています。また運動不足にならないよう歩行訓練や機械を使っての運動をしていただいています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前に声かけをして入浴していただいています。しかし嫌いな方もいて拒否をされたときは時間を置いて又は翌日に又声かけをしてなど無理強いはしないようにしています。	一日おきをめやすとして週2回以上の入浴を実施しています。日曜日を除いて毎日湯を張り、全身観察も同時に取組み、病気の早期発見・治療につなげています。入浴剤は複数用意して香りと色を楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は20時頃ですが、人によってはもっと遅い方もいらっしゃいます。そのような方には様子を見ながら就寝の声かけをしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は個人ファイルに綴じてあり、いつでも見ることが出来、薬も確実に服用できるよう利用者ごとに曜日・時間帯を分けて個別の袋に入れてあり飲み忘れのないようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ほぼ毎日の午前中に体操・歌・ゲームなどのレクリエーションを皆様一緒に行っています。洗濯物畳みやお掃除、食後の片付けなど出来る方にはお願いしてやっていただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週に1回ほどですが、ドライブに出掛けています。今年の初詣は近くの中島神社にほぼ全員が行っています。春になったら、梅・桜の花見に出掛けようと思っています。	歩行ができる人はほぼ毎日散歩に出かけ、寒い時期でも外の空気に触れることができます。担当職員が中心となって年間計画を立て、初詣に始まり四季折々の花見、動物園、ぶどう狩りといった外出メニューがあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方はひとりいらっしゃいますが、その他の方は紛失を防ぐ為にこちらで家族からお預かりしています。必要なものがある時は一緒に買い物に行ったり、代わりに買ってきています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方は2名いて、家族と連絡を取っています。他の方は電話は取り次ぎますが、本人からは電話は出来ません。その代わりに手紙を書いていただき家族と交流が持てるようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングなどの共有の場所は利用者が過ごしやすいようまた危険の無いように配置しています。また壁などに季節の飾り付けをしています。	リビングには『富士の山』『たきび』といった季節の歌詞が掲げられ意気揚々とした歌声が響きます。冬季は感染症予防として加湿器や次亜塩素酸水噴霧器を設置し、時間を決めて台所からコンタクトポイント、トイレにと除菌消毒の衛生管理が行われています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファや椅子を配置しており、それぞれ好きな場所で会話をしたり、テレビを見たりして過ごせるようにしてあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の居室には好みのものや使い慣れたものを持ってきていただき、居心地良く過ごせるようにレイアウトを考えています。	友人が置いていったというポスターを大切に貼り続ける人、自宅から持ち込んだ姿見、仏壇や遺影に見守られ安眠につく人など、その人らしい生活が垣間見えました。布団干しやリネン交換は実施曜日を決めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は危険の無いように全てバリアフリーになっています。トイレなどにはわかりやすいように見える位置に名札をつけています。歩行の不安定な方は手すり伝いに歩けるようになっています。		